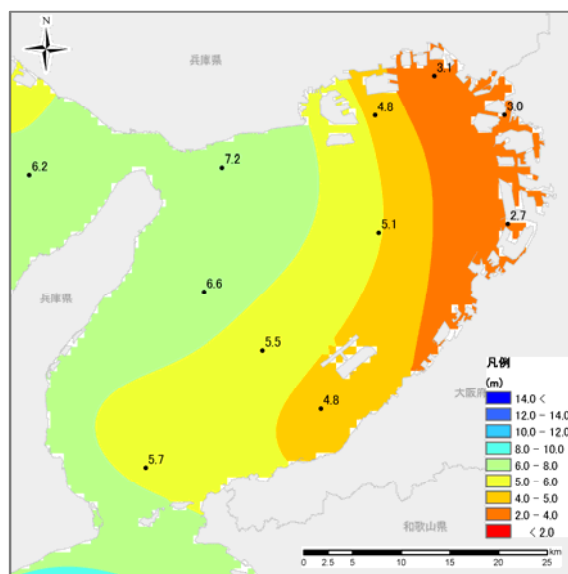


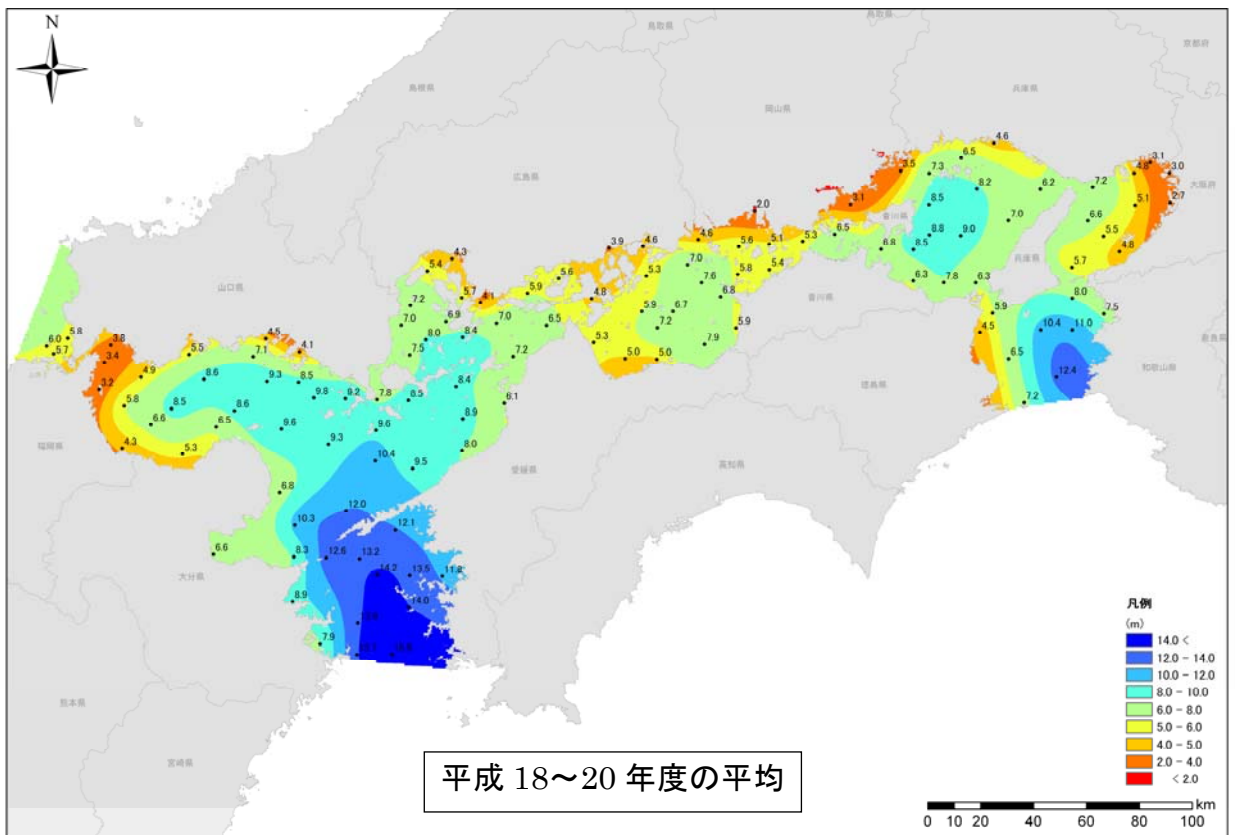
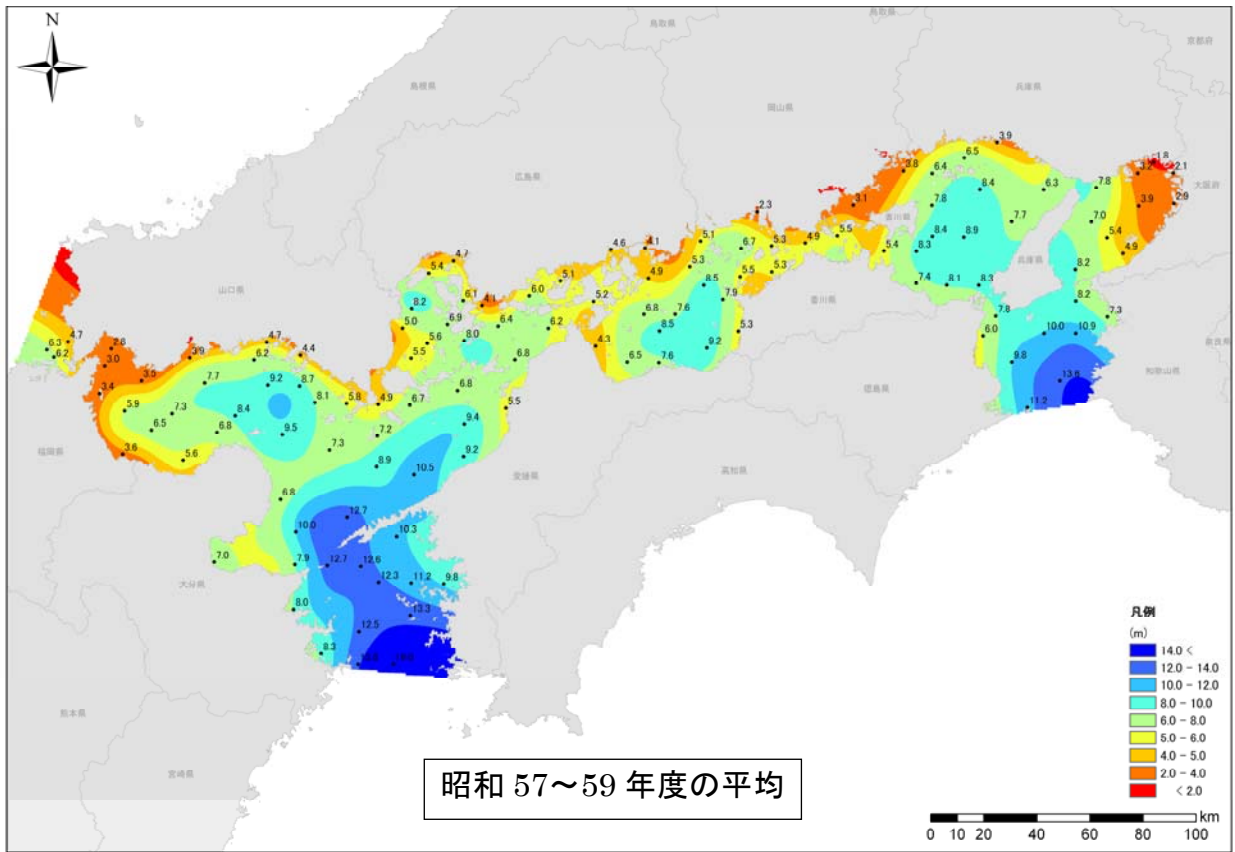
昭和 57～59 年度の平均



平成 18～20 年度の平均

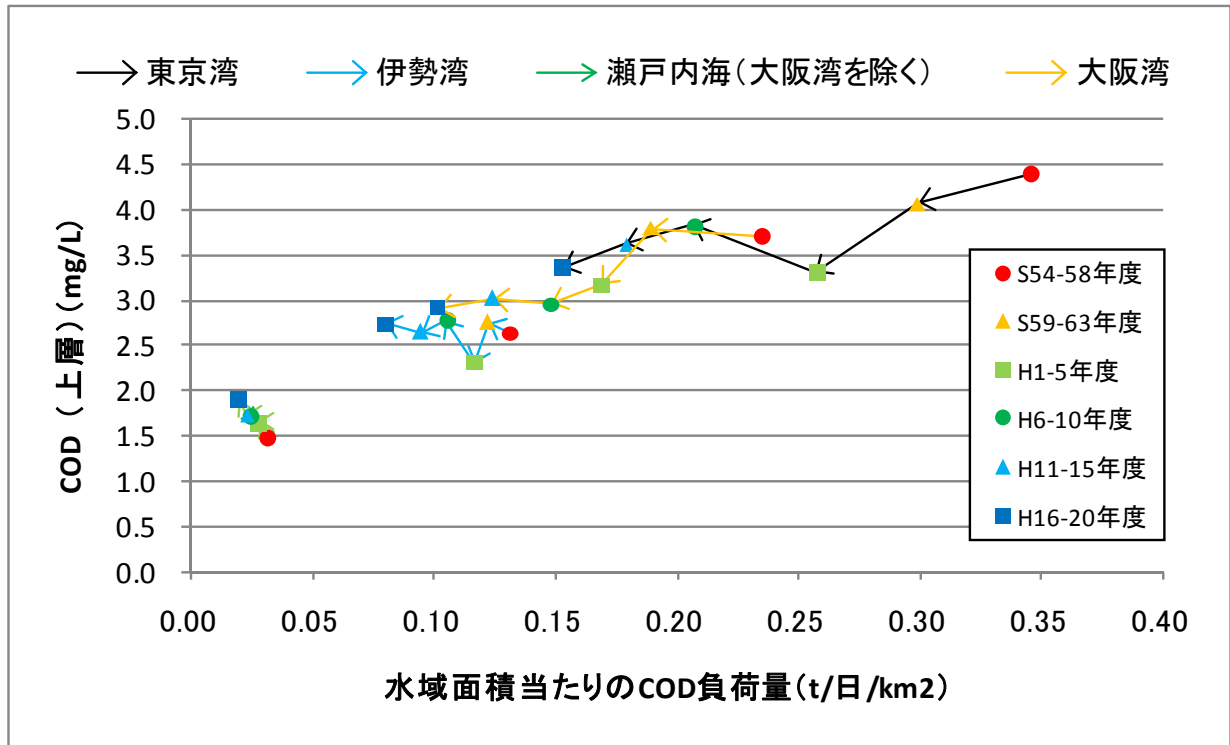
出典) 広域総合水質調査(環境省)

図 32 大阪湾における透明度の分布



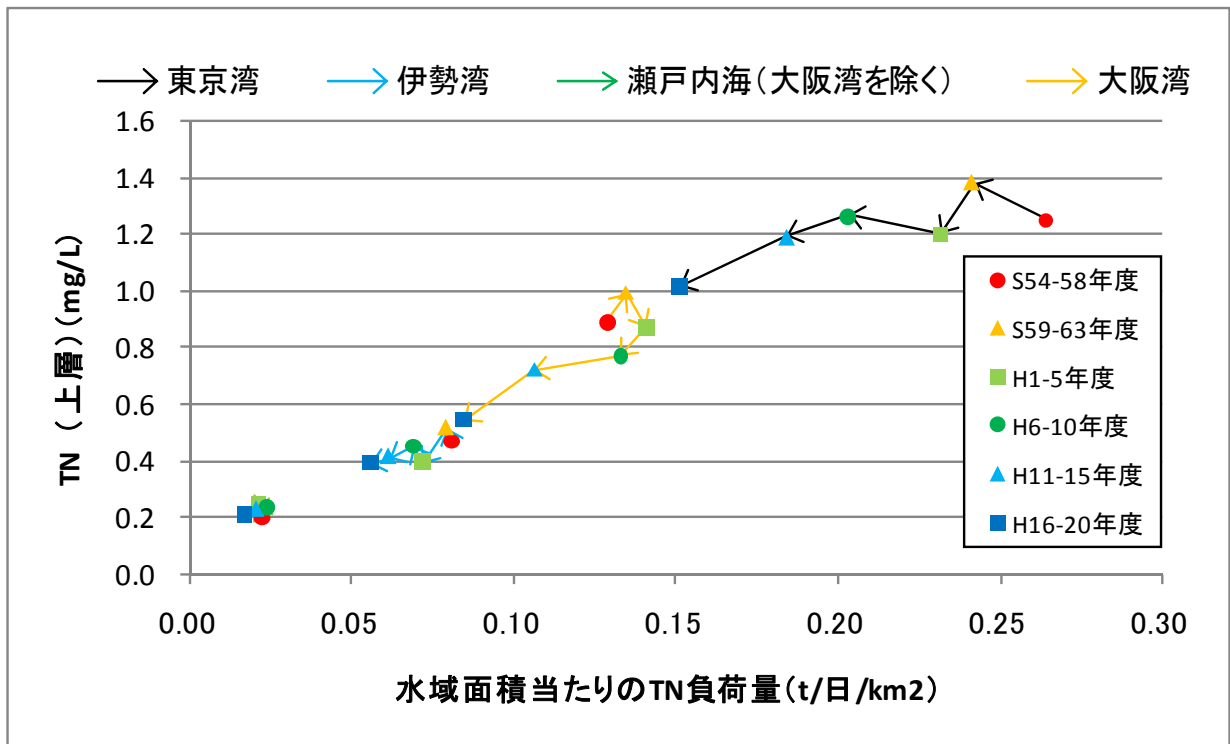
出典) 広域総合水質調査 (環境省)

図 33 瀬戸内海における透明度の分布



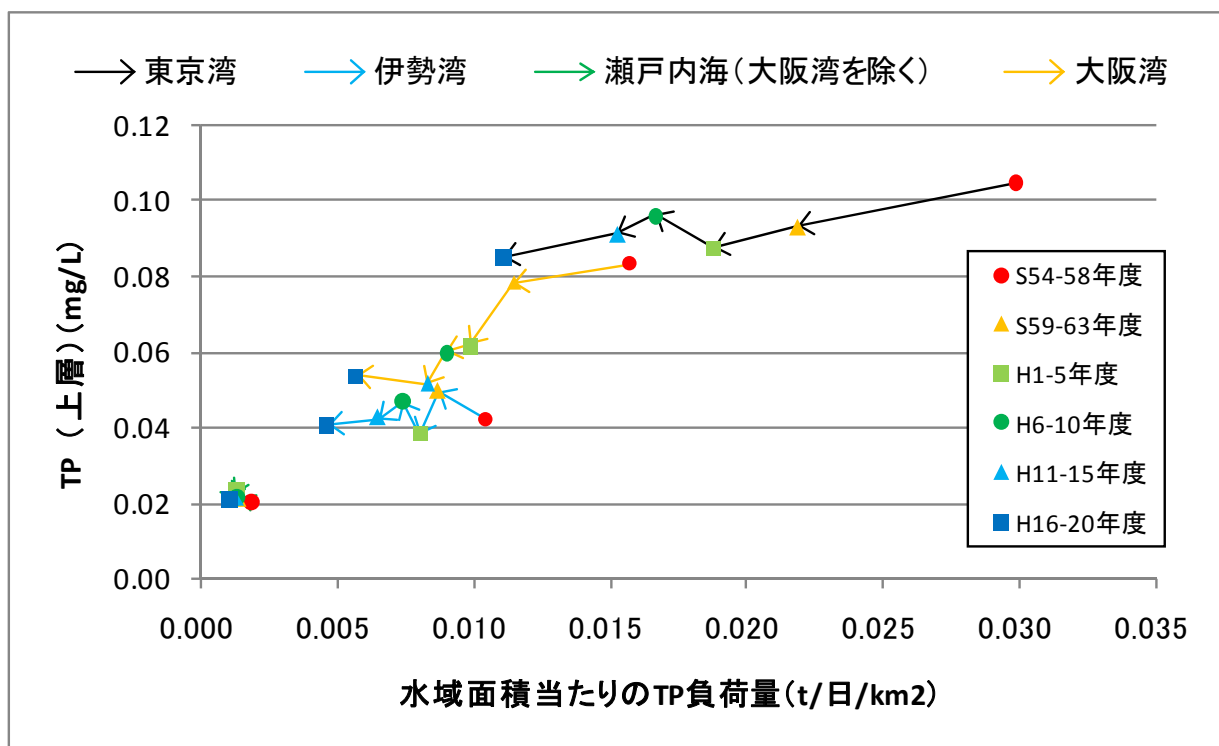
注) 発生負荷量については第1次～第6次総量削減開始年度の値を、水質については各総量削減期間中の平均水質を用いた。

図 34 水域面積あたりの発生負荷量と COD 濃度の推移



注) 発生負荷量については第1次～第6次総量削減開始年度の値を、水質については各総量削減期間中の平均水質を用いた(窒素については、第5次総量削減より削減項目に追加)。

図 35 水域面積あたりの発生負荷量と窒素濃度の推移



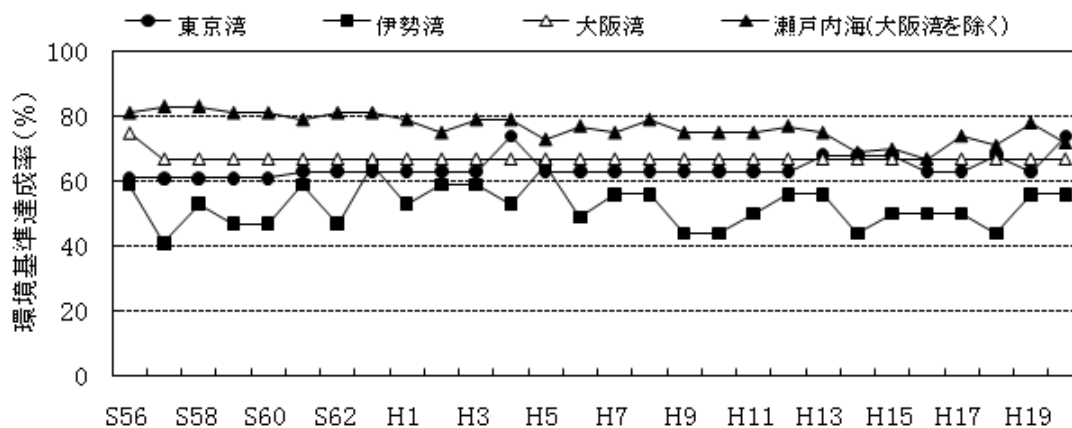
注) 発生負荷量については第1次～第6次総量削減開始年度の値を、水質については各総量削減期間中の平均水質を用いた(りんについては、第5次総量削減より削減項目に追加)。

図 36 水域面積あたりの発生負荷量とりん濃度の推移

表 10 平成 20 年度類型別環境基準達成率(COD)

		A	B	C	合計
東京湾	指定水域数	2	8	9	19
	達成水域数	1	4	9	14
	達成率(%)	50.0	50.0	100.0	73.7
伊勢湾	指定水域数	4	6	6	16
	達成水域数	0	3	6	9
	達成率(%)	0.0	50.0	100.0	56.3
大阪湾	指定水域数	3	2	7	12
	達成水域数	0	1	7	8
	達成率(%)	0.0	50.0	100.0	66.7
瀬戸内海(大阪湾を除く)	指定水域数	51	56	43	150
	達成水域数	19	47	43	109
	達成率(%)	37.3	82.1	100.0	72.0
瀬戸内海全体	指定水域数	54	58	50	162
	達成水域数	19	47	50	125
	達成率(%)	35.2	81.0	100.0	71.6

出典) 公共用水域水質測定結果(環境省)



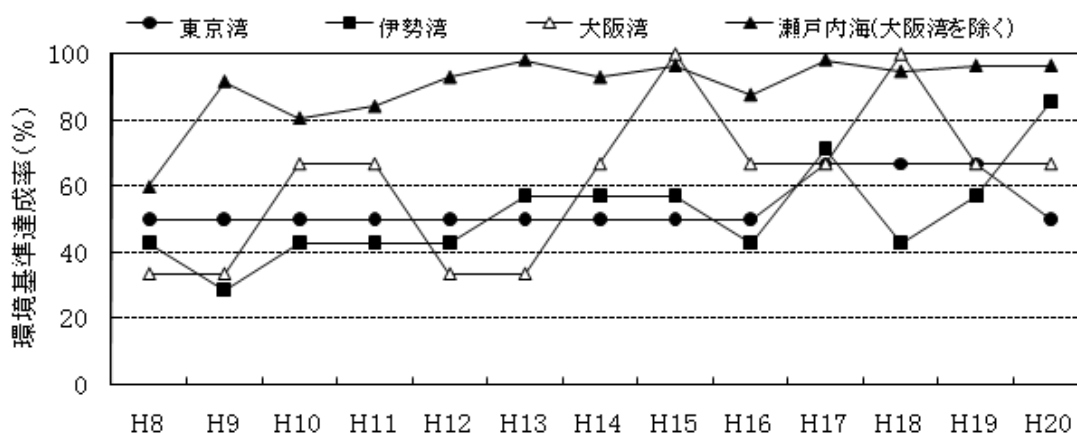
出典) 公共用水域水質測定結果 (環境省)

図 37 COD の環境基準達成率の推移

表 11 平成 20 年度類型別環境基準達成率(T-N・T-P)

		I	II	III	IV	合計
東京湾	指定水域数	0	1	1	4	6
	達成水域数	0	0	0	3	3
	達成率(%)	0.0	0.0	0.0	75.0	50.0
伊勢湾	指定水域数	0	2	2	3	7
	達成水域数	0	1	2	3	6
	達成率(%)	0.0	50.0	100.0	100.0	85.7
大阪湾	指定水域数	0	1	1	1	3
	達成水域数	0	0	1	1	2
	達成率(%)	0.0	0.0	100.0	100.0	66.7
瀬戸内海 (大阪湾を除く)	指定水域数	1	41	12	3	57
	達成水域数	1	40	12	2	55
	達成率(%)	100.0	97.6	100.0	66.7	96.5
瀬戸内海全体	指定水域数	1	42	13	4	60
	達成水域数	1	40	13	3	57
	達成率(%)	100.0	95.2	100.0	75.0	95.0

出典) 公共用水域水質測定結果 (環境省)



出典) 公共用水域水質測定結果 (環境省)

図 38 窒素及びりんの環境基準達成率の推移

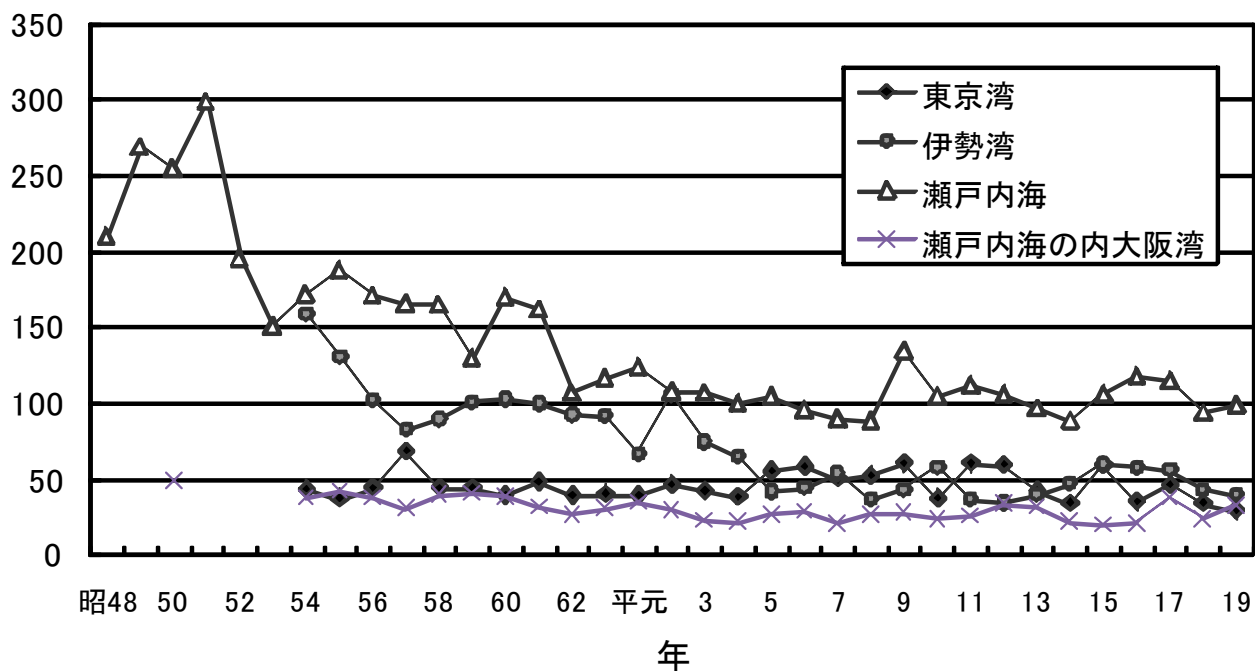
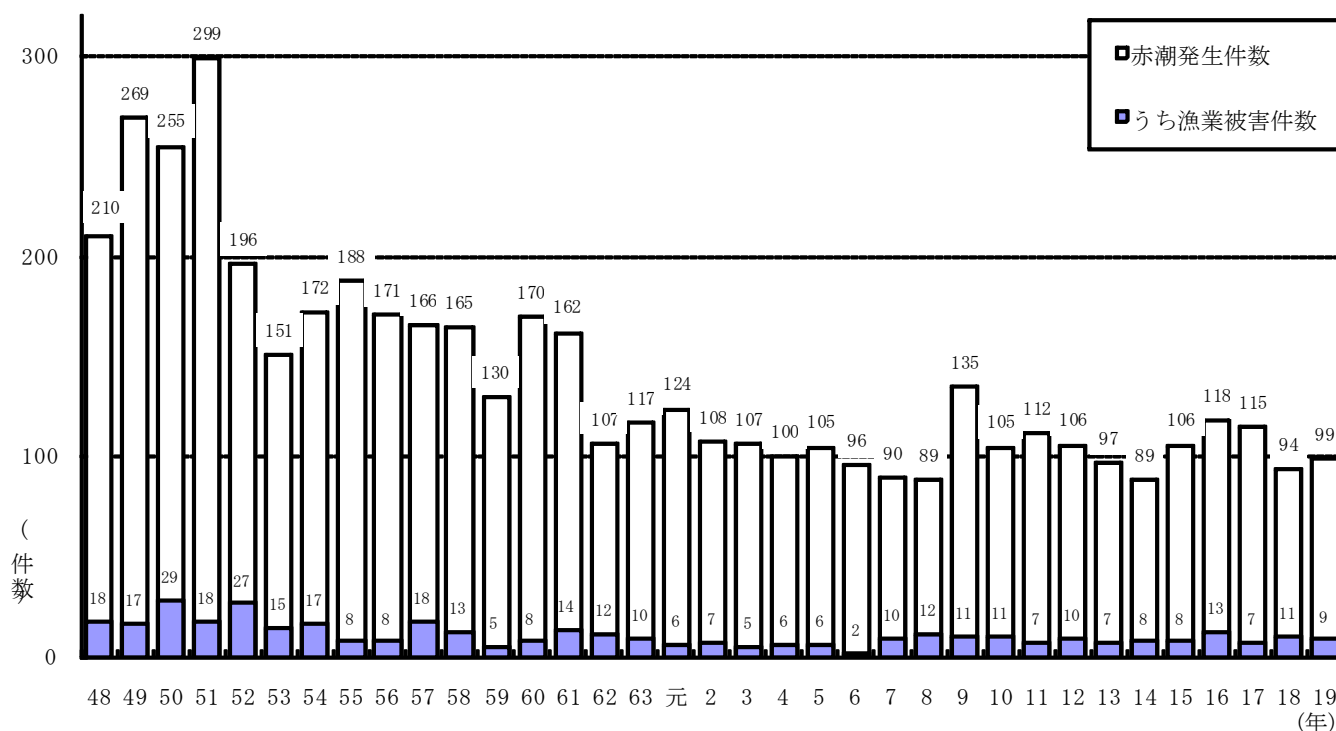
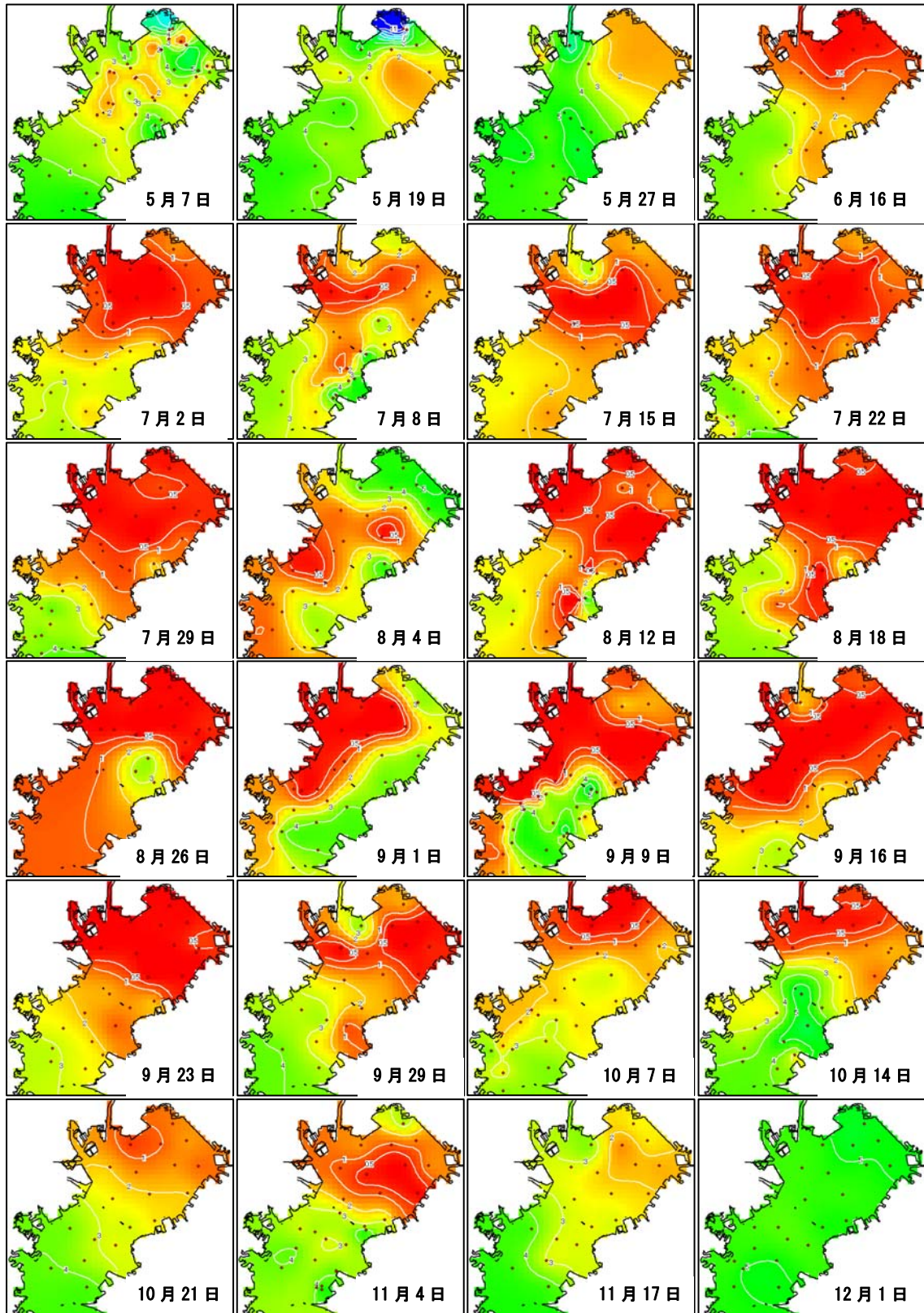


図 39 東京湾、伊勢湾、瀬戸内海、大阪湾における赤潮発生件数の推移



出典)「瀬戸内海の赤潮」(水産庁瀬戸内海漁業調整事務所)

図 40 瀬戸内海における赤潮発生及びその漁業被害状況



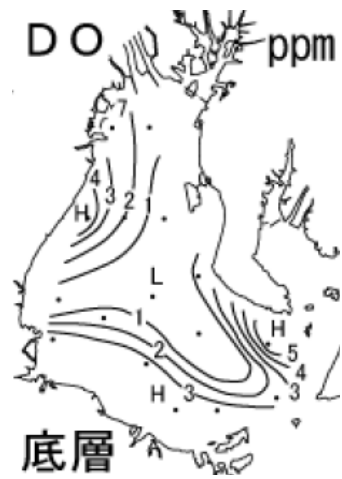
注)DOは底上1mの値  
 出典)千葉県水産総合研究センター資料



図 41 東京湾における底層DOの分布 (平成20年度)



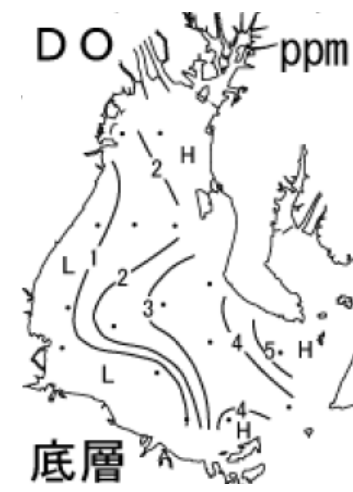
5月1日



6月6日



7月3日



8月1日



9月4日



10月3日



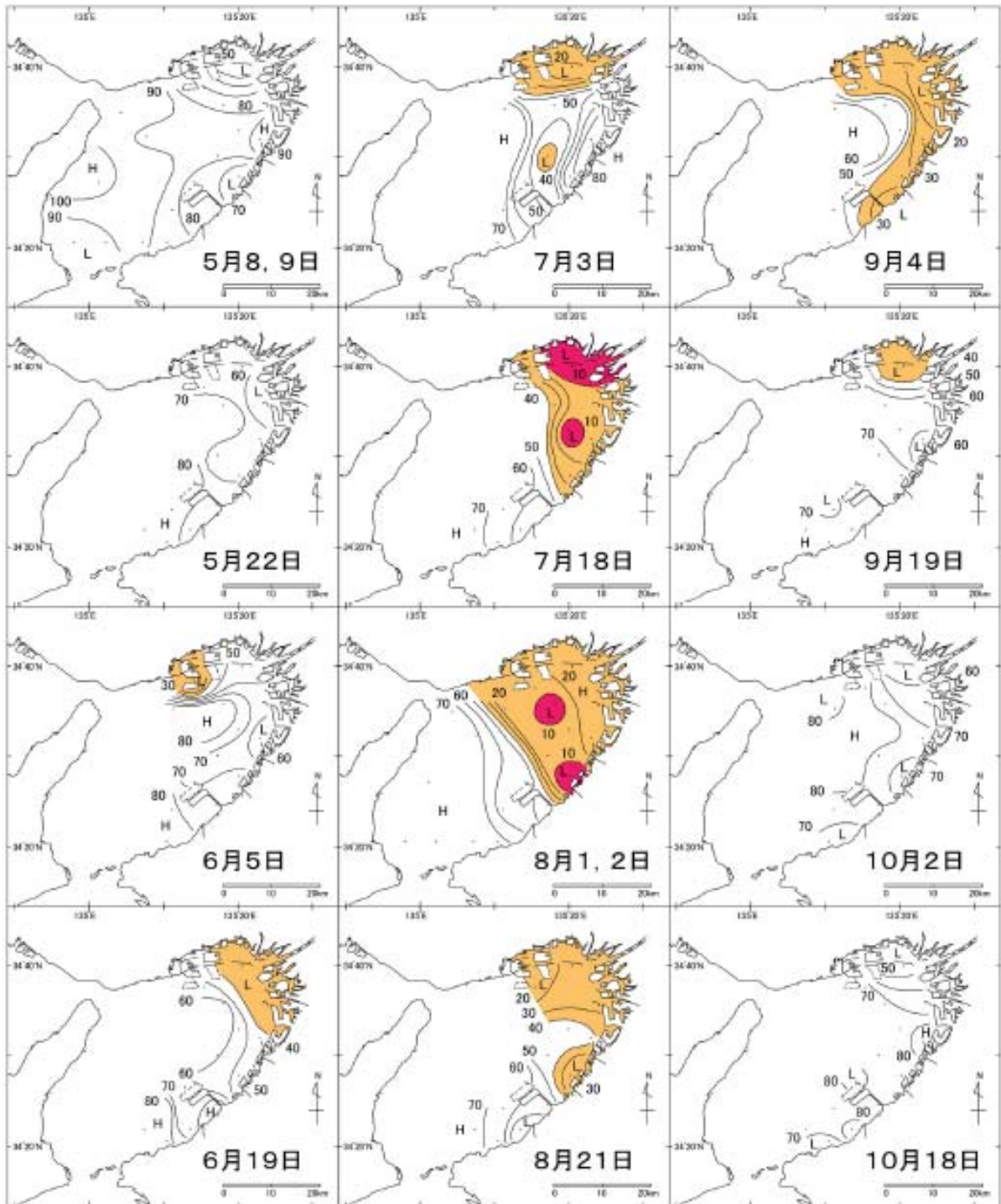
11月6日

出典) 三重県科学技術振興センター

備考) DOは底上1mの値

図 42 伊勢湾における底層DOの分布 (平成 20 年)





出典)大阪府環境農林水産総合研究所

備考)DOは底上1mの値

備考)薄いハッチは酸素飽和度40%以下、濃いハッチは10%以下を示す

図 43 大阪湾における酸素飽和度(%)の分布(平成 19 年)

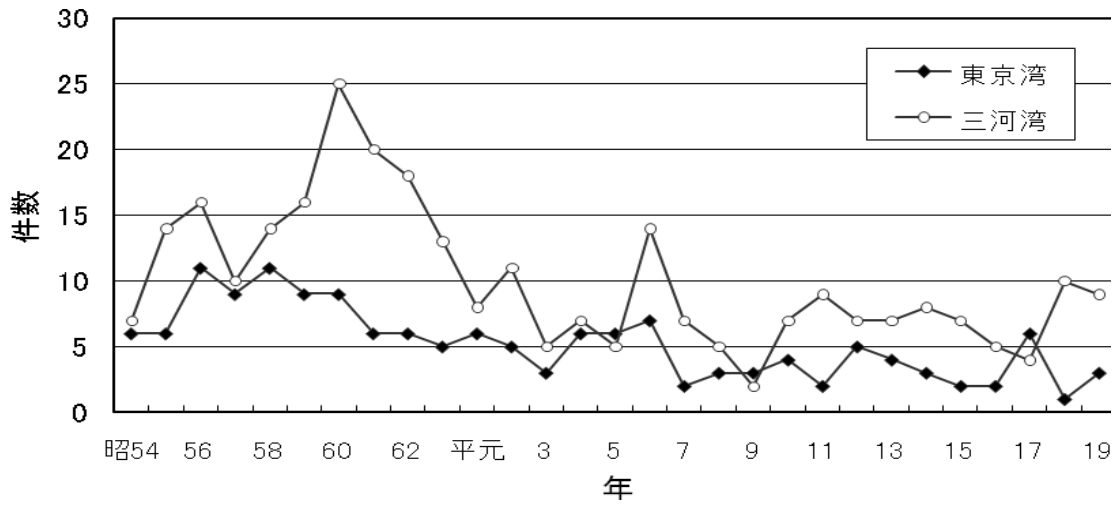
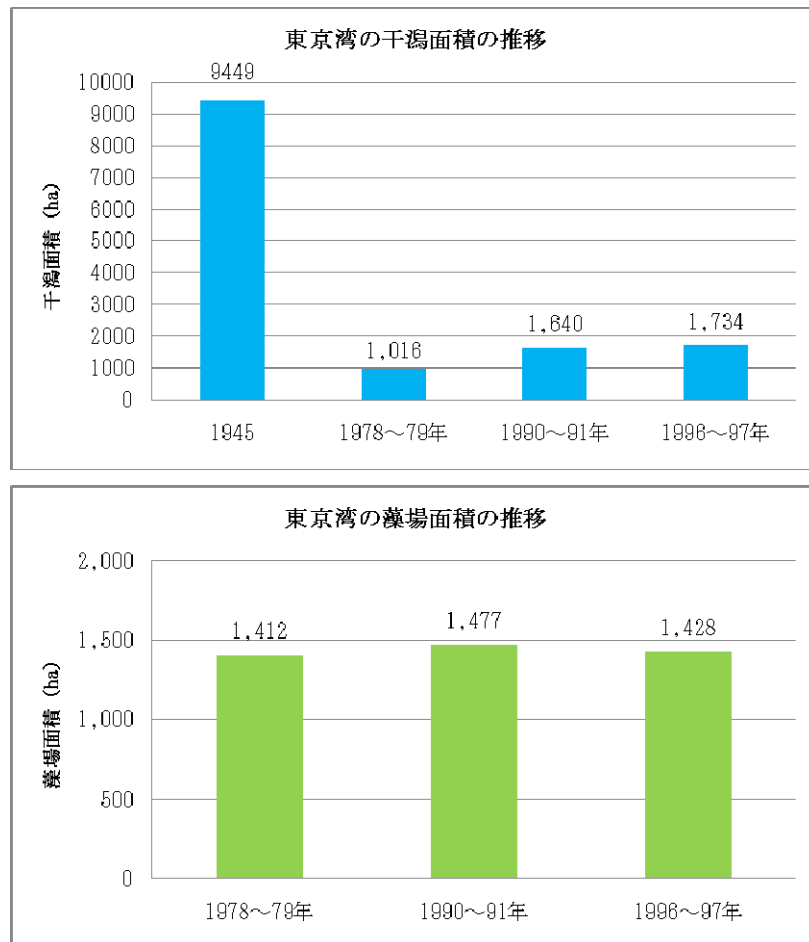


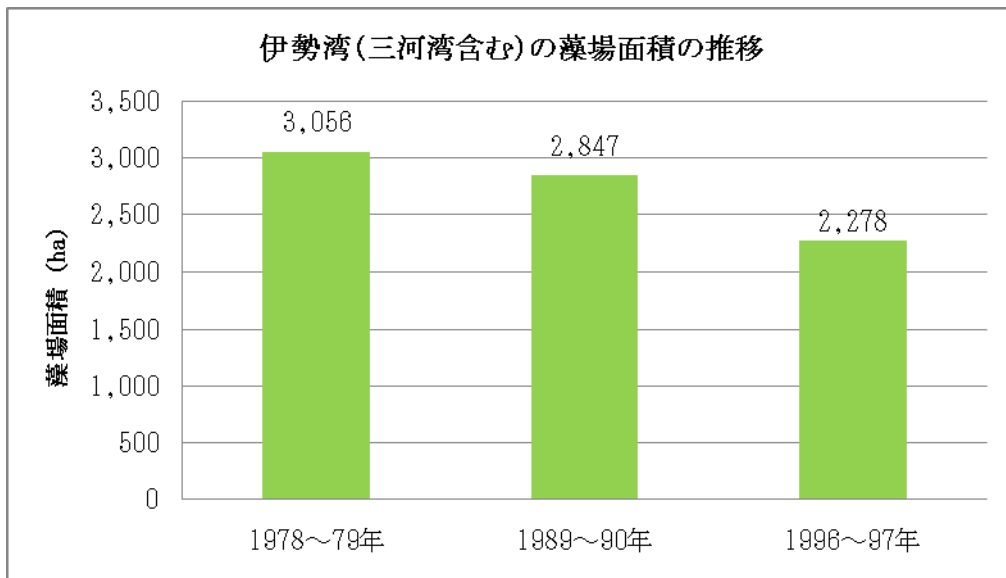
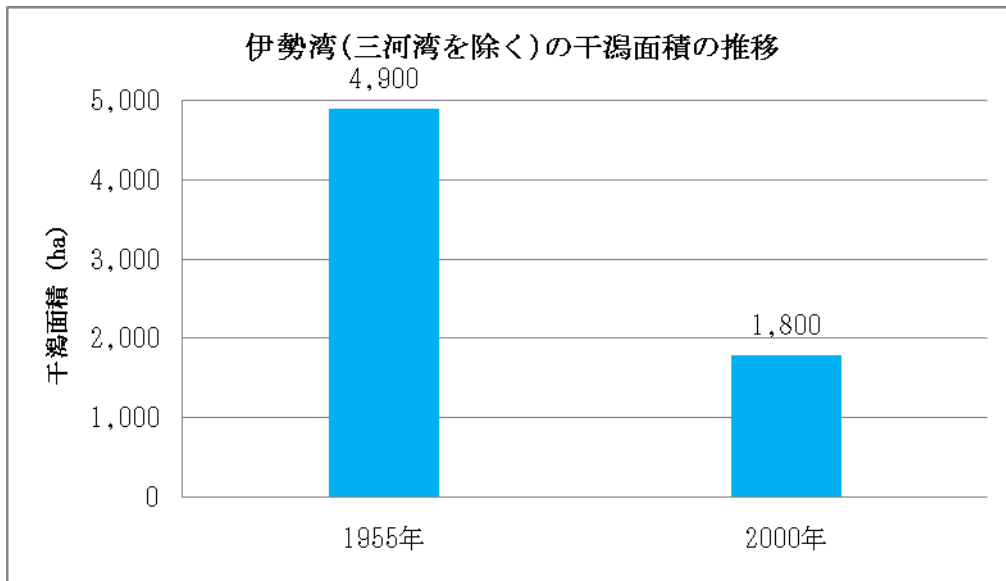
図 44 東京湾及び三河湾における青潮(苦潮)の発生状況



<干潟・藻場面積>

- ・1945、1978～79年:「第2回自然環境保全基礎調査 海域調査報告書」(環境庁)
- ・1990～91年:「第4回自然環境保全基礎調査 海域生物環境調査報告書」(環境庁)
- ・1996～97年:「第5回自然環境保全基礎調査 海辺調査」(環境庁)

図 45 東京湾における干潟・藻場面積の推移



<干潟面積>

・1955年、2000年:「伊勢湾の生態系の回復に関する研究」

(平成15年3月、三重県科学技術振興センター)

注)干潟面積は伊勢湾(三河湾を除く)における面積である。

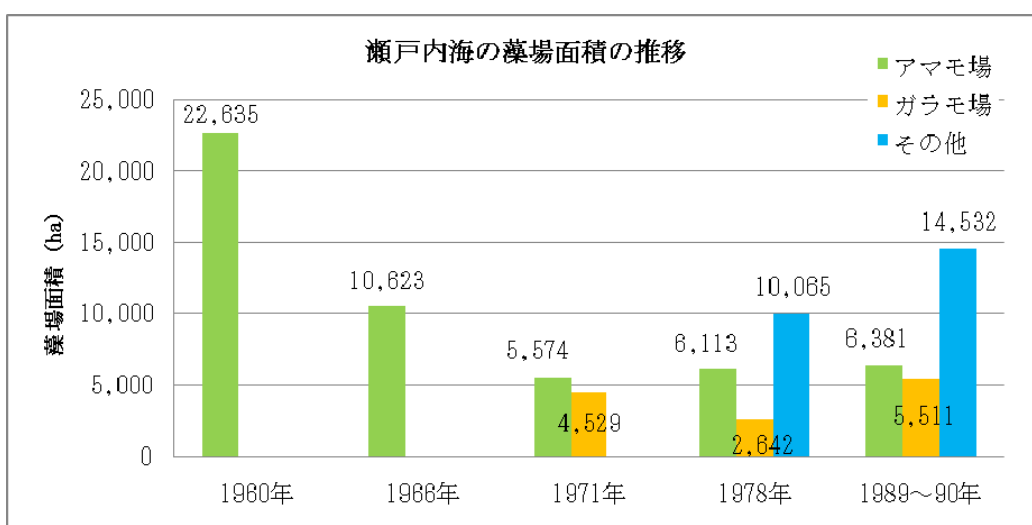
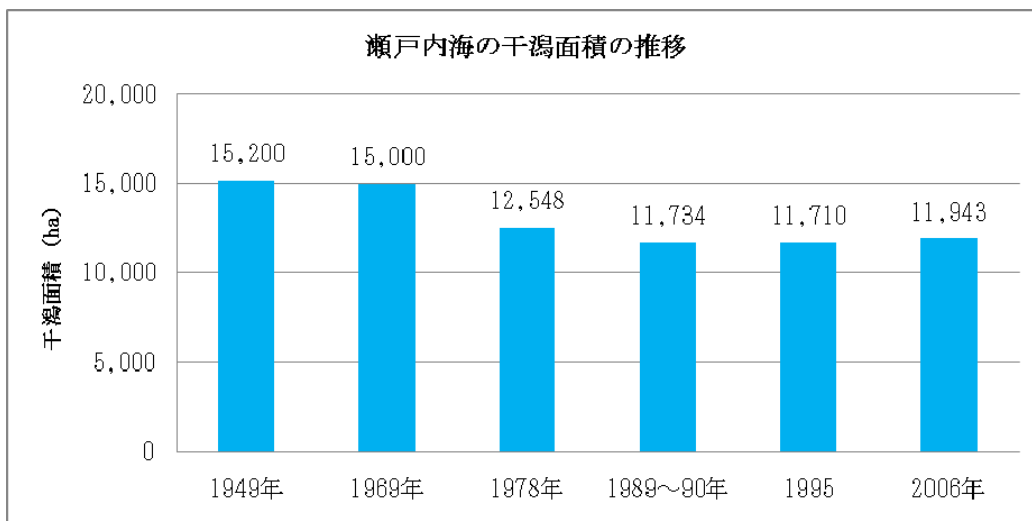
<藻場面積>

・1978~79、1989~90年:「第4回自然環境保全基礎調査 海域生物環境調査報告書」(環境庁)

・1996~97年:「第5回自然環境保全基礎調査 海辺調査」(環境庁)

注)1978~79年の藻場面積は、1989年~90年の面積に、1989以前に消滅した面積を足し合わせて算出した。

図46 伊勢湾における干潟・藻場面積の推移



<干潟面積>

- ・1949、1969年:「瀬戸内海要覧」(建設省中国地方建設局)
- ・1978年:「第2回自然環境保全基礎調査 海域調査報告書」(環境庁)
- ・1989～90年:「第4回自然環境保全基礎調査 海域生物環境調査報告書」(環境庁)
- ・1995年:「第5回自然環境保全基礎調査 海辺調査報告書」(環境庁)
- ・2006年:「瀬戸内海干潟実態調査」(環境省)より

注)出典により、面積測定方法に違いがある。

<藻場面積>

- ・1960、1966、1971年:「水産庁南西海区水産研究所調査」より
- ・1978年:「第2回自然環境保全基礎調査 海域調査報告書」(環境庁)より
- ・1989～90年:「第4回自然環境保全基礎調査 海域生物環境調査報告書」(環境庁)より

図 47 瀬戸内海における干潟・藻場面積の推移

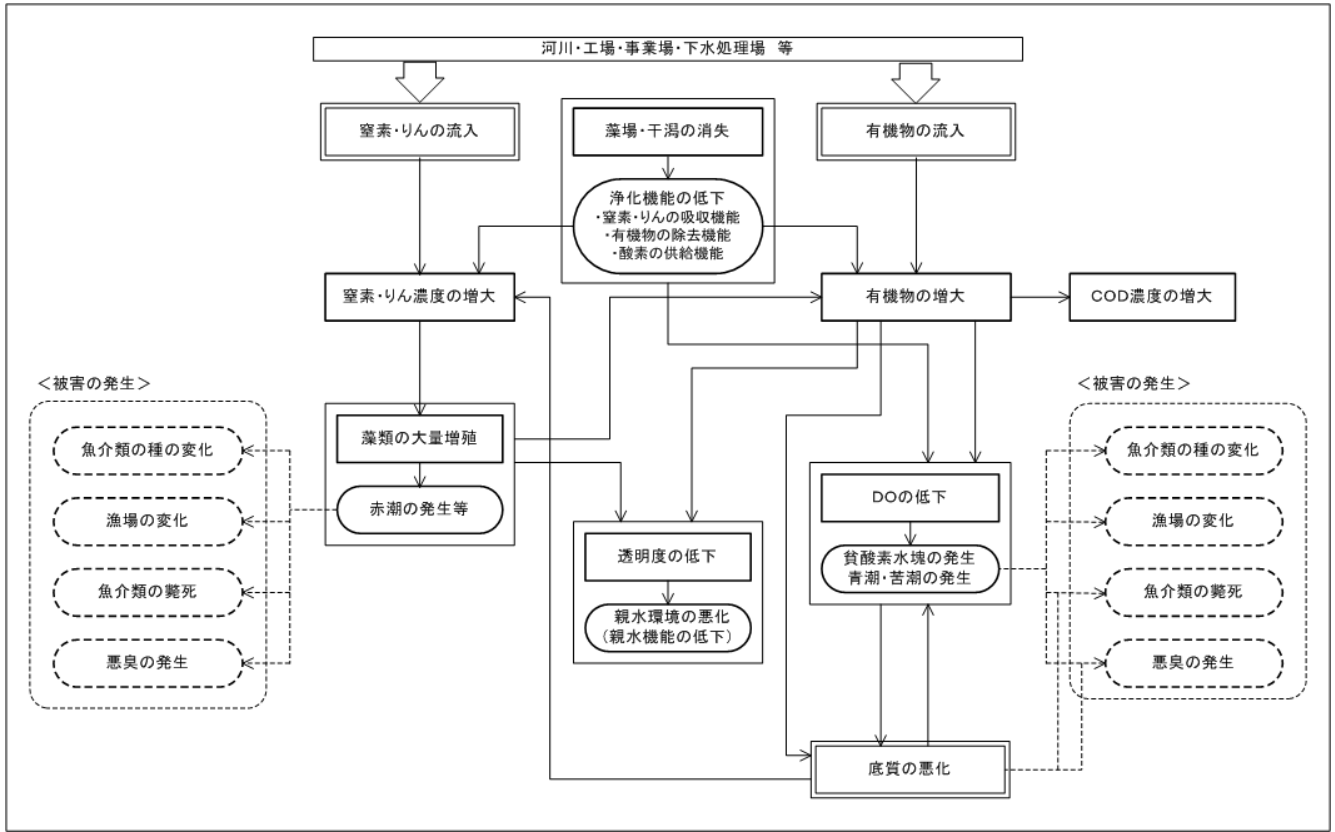
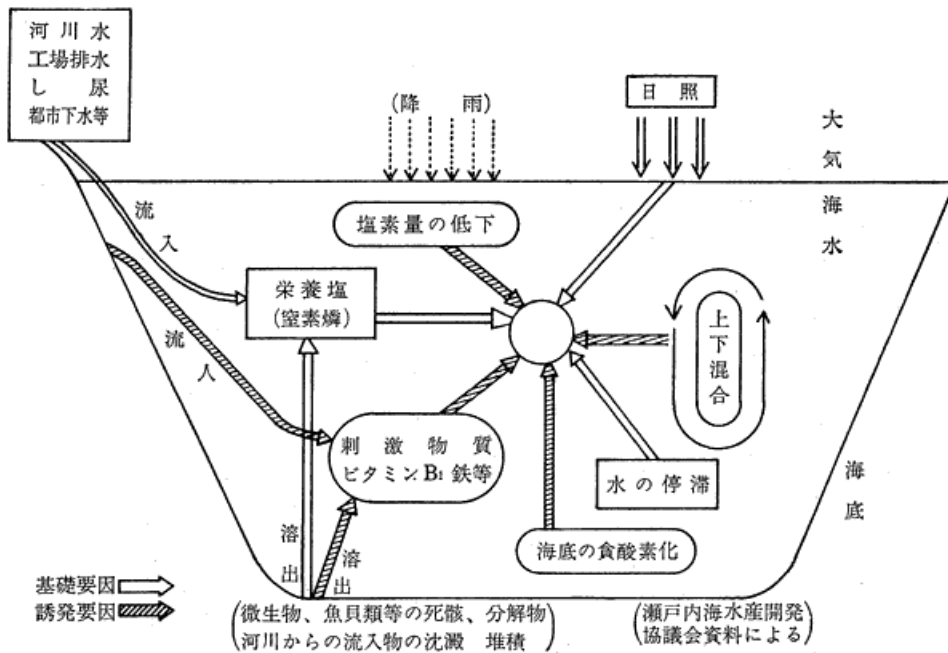


図 48 閉鎖性海域の水質汚濁メカニズム



区分	要因	内容
基礎要因	栄養塩の供給	陸域からの流入または底質からの溶出により供給
	日照	増殖に必要な日照
	水の停滞	夏期の成層期及び弱風時など
誘発要因	塩素量の低下	出水時後など河川等からの淡水供給
	刺激物質の供給	陸域からの流入または底質からの溶出により供給
	海底の貧酸素化	底質からの溶出が促進され、栄養塩・刺激物質の供給に関与

資料:「環境白書 昭和 47 年版」(環境庁)より作成

図 49 赤潮の発生機構